

# 記者会見出席者 プロフィール



## 高 秀蘭

### 第6回 JCF 学生映画祭 実行委員長 / 映画プロデューサー

台湾テレビのプロデューサーとしてキャリアを積み、1986年ニューウェーブを設立。以降、中国語圏の優れた監督の製作・配給に関わってきた。カンヌ映画祭グランプリを授賞した台湾の侯孝賢（ホウ・シャオ・シェン）監督の「非情都市」（1988年）「戲夢人生」（1991年）のプロデュースを始め、中国の張芸謀（チャン・イーモウ）監督の「紅夢」（1991年）「活着」「上海ルージュ」（1995年）何平（ハー・ピン）監督の「哀愁花火」のポストプロダクションを勤めた。陳凱歌（チェン・カイコー）監督とは「さらば、わが愛／霸王別姫」（1993年／カンヌ映画祭パルムドール授賞）「花の影」（1996年）「始皇帝暗殺」（1998年）のプロデュースを手掛ける。



## 林 海象

### 第6回 JCF 学生映画祭 審査委員長 / 映画監督

1985年「夢みるように眠りたい」（主演/佐野史郎）製作・脚本・監督 41 回毎日映画コンクール・スポニチグランプリ賞 ベナルマデナ国際映画祭グランプリ賞、フィグエイラ・ダ・フォッシュ国際映画祭グランプリ賞、ブルーデンツ国際映画祭グランプリ賞  
1986年「帝都物語」脚本  
1989年「二十世紀少年読本」（主演/三上博史）製作・脚本・監督、エジンバラ国際映画祭チャーリー・チャップリン賞  
1990年「ZIPANG」（主演/高嶋政宏・安田成美）脚本・監督  
1991年「フィガロ・ストーリー」（日米仏合作映画）脚本・監督  
1992年「アジア・ビートシリーズ」6ヶ国総合プロデューサー、香港編「秋月」ロカルノ国際映画祭グランプリ賞  
1993年「我が人生最悪の時」（主演/永瀬正敏）製作・脚本・監督、オルレアン国際映画祭銀賞  
1994年「遙かな時代の階段を」（主演/永瀬正敏）製作・脚本・監督  
1995年「畏」（主演/永瀬正敏）製作・脚本・監督、「海ほうずき」（主演/唐十郎・原田芳雄）  
1996年「アトランタ・プギ」プロデュース MTV「自由」世界 MTV 祭アジアグランプリ賞  
1997年「CAT'S EYE」（主演/内田有紀・藤原紀香）脚本・監督  
1999年2年間渡米「POWER RINGER」（米20世紀FOX TV）監督  
2000年「LOST ANGELS」（主演/原田暄太）製作・脚本・監督、「7 BLAIDFS」（PS2 ゲーム）原案・監督 コナミ  
2001年 京都造形芸術大学 教授就任  
2002年「私立探偵 濱マイク TV シリーズ」放送開始(日テレ)原作「私立探偵 551」短編(主演/北村一輝)yahoo.BB  
2003年 TV「タイムリミット」（主演/竹野内豊・緒方拳）脚本・監督、2003年ギャラクシー賞月間最優秀賞/年間奨励賞 TV「黒の女」短編(主演/ともさかりえ)脚本・監督



## ルーカス S.

### 第6回 JCF 学生映画祭 審査員 / 映画プロデューサー

1975年：ウィーン大学漢学科入学。  
1977/78年：台湾で留学；中国や東南アジアで研究。  
1981年：ウィーン大学を修士として卒業。  
1982年から1991年まで：東京ベースでドイツ、オーストリアとスイスの新聞や雑誌の東アジア特派員として活躍（担当地域：日本、韓国、中国、香港、台湾、フィリピン、ベトナム、カムボジア）。  
1991年から2000年まで：香港ベースで特派員の仕事を続ける；同時にヨーロッパの映画製作会社のため中国での映画製作に参加、脚本を書く。  
1996年から2003年まで：ドイツ映画製作者協会アジア代理。  
2001年から：東京滞在、VARIETY 日本特派員として活躍。2003年の東京国際映画祭の「アジアの風」部門の審査員。  
2004年から：MOVIE MARKETING Asia (キネマ旬報社出版)副編集長



## 太田 雅人

### 第6回 JCF 学生映画祭 ゼネラルプロデューサー / (株)GETTI 代表取締役 / JCF スカラシップ委員長

1965年8月4日生まれ。平成元年、関西学院大学経済学部卒。GETTIグループ創業者。現在、GETTI.CO.JP <(株)ゲッティ> 代表取締役。GETTI INC. (本社：米デラウェア州) CEO。大学時代にヤングマーケット向けの広告・プロモーション・情報配信事業を創業。現在、企業・学校法人・地方自治体向けのブランディングやビジネス開発のコンサルティングを主として、携帯電話向けのコンテンツ配信事業やブロードバンド配信事業など、幅広く事業を展開する。特に、志のある若者の可能性を世に送り出すインキュベーション活動や、<アイデア> や <情報> を核として新規ビジネスの開発に情熱を注いでいる。99年より、JCF 学生映画祭、02年に地元で青山映画祭・青山音楽祭をゼネラルプロデューサーとして立ち上げる。また、新作支援の JCF スカラシップ委員長であり、今回の第6回から、スカラシップを、リクープを念頭とした新作製作に発展させた JCF (Japan Creator's Fund) を設立予定。

## JCF 学生映画祭・沿革

- 1999年2月 ゆうばり国際ファンタスティック映画祭の10周年特別協賛企画として第1回 JCF 学生映画祭開催。
- 2000年2月 第2回 JCF 学生映画祭開催。全国に認知され、300を超える応募作品があつまる。
- 2001年2月 第3回 JCF 学生映画祭開催。  
グランプリ受賞監督に投資し、プロのスタッフと共に映画を制作する機会を与える「JCF スカラシップ制度」が始動。
- 2002年5月「JCF スカラシップ制度」により、第3回グランプリ受賞監督の新作がクランクイン。
- 2002年7月アジアへの展開を視野に入れ、沖縄県那覇市にて第4回 JCF 学生映画祭開催。  
アジアムービーフェスティバルを同時開催。香港・台湾・中国・韓国のアジア4地区から学生監督を招待。
- 2004年3月東京・お台場にて第5回 JCF 学生映画祭開催。
- 2004年5月東京(6月6日)・名古屋(7月3日)・神戸(9月6日)にて記念上映会を実施。
- 2005年3月愛・地球博(愛知万博)の会場内にて第6回 JCF 学生映画祭開催予定。